

倒産法 1 練習問題の追加

破産債権

以下の3題は、いずれも2017年春学期末試験の試験範囲である。

問題1 [L2]

Gは、Sとの消費貸借契約に基づき、2口の債権を有している。1つは債権額100万円の債権で、他は200万円の債権である（前者を「 α 債権」あるいはSから見て「 α 債務」といい、後者を「 β 債権」あるいは「 β 債務」という）。Zは、Sの委託を受けて、これら債務について連帯保証人になった。Sについて破産手続が開始されたが、その前日における債権額は利息・遅延損害金を含めて上記の通りであったとする。破産手続開始の前日にZは、 α 債権についてのみ保証債務を完済することができた。

破産手続における配当率が10%であると仮定して、下記の小問に答えなさい（G又はZが破産配当により受領する金額も明示しなさい）。なお、Zが α 債権について保証債務を履行したことによるSに対する求償権について、履行日の法定利息（民法459条2項・442条2項参照）は無視しうるものとする。

（小問1）GがSの破産手続に参加しない場合に、ZはSに対する求償権をもってSの破産手続に参加することができるか。できるとすれば、どのような債権をもって破産手続に参加し、どのような配当を得ることができるか。

（小問2）GがSの破産手続に参加する場合に、Gはどのような債権をもって破産手続に参加することができるか。また、Gが参加した場合に、Zは破産手続に参加することができるか；できるとすれば、どのような債権をもって破産手続に参加することができるか。GとZは、破産手続に参加できるとした場合に、どのような配当を得ることができるか。

問題2 [L2b]

2001年4月1日にGがSに1000万円を貸し付けた。利息は、毎年3月31日に年5%の割合で支払い、元本は2006年3月31日に返済することが約定された（2006年3月31日に、元本1000万円及び最後の1年分の利息50万円が支払われるものとする）。Sの委託を受けたZが連帯保証人になった。

次の小問に回答しなさい。

（ケースA）財産状況が悪化したSは、2002年3月31日に支払うべき利息を支払うことができず、期限の利益を喪失し、2003年4月1日（月）に破産手続開始決定を受けた。Zの財産状況は良好とは言えないが、まだ破産手続開始決定を受けるほどではない。Sの破産手続開始の直前の2003年3月31日にZが利息の外に元本の一部200万を返済し、さらに、破産手続中の2004年3月31日に利息の外に元本300万円をGに支払った。その後でSの破産手続において最後配当がなされるものとする。

（小問A1）Zは破産手続に参加することができるか。できるとすれば、どのような債権をもって破産手

続に参加することができるか。

(小問A2) Gはどのような債権をもって破産手続に参加することができるか。

(小問A3) Gはどの金額を基準にして配当を受けることになるか。

(ケースB) Sの財産状況は良好であり、2002年3月31日に約定の利息を支払った。しかし、Zの財産状況が悪化したので、Gの要請により、2003年3月31日にSが利息の外に元本の一部200万を返済した。その翌日の2003年4月1日(月)にZについて破産手続が開始された。2004年3月31日にSが利息の外に、元本の一部300万円を繰上返済し、その後でZの破産手続において最後配当がなされるものとする。

(小問B1) Sは破産手続に参加することができるか。できるとすれば、どのような債権をもって破産手続に参加することができるか。

(小問B2) Gはどのような債権をもって破産手続に参加することができるか。

(小問B3) Gはどの金額を基準にして配当を受けることになるか。

問題3 [L2b]

2001年4月1日にGがSに1000万円を貸し付けた。利息は、毎年3月31日に年5%の割合で支払い、元本は2006年3月31日に返済することが約定された(2006年3月31日に、元本1000万円及び最後の1年分の利息50万円が支払われるものとする)。Sの委託を受けたZが連帯保証人になった。

Sの財産状況が悪化し、2002年3月31日に支払うべき利息を支払うことができず、期限の利益を喪失し、2003年4月1日(月)に破産手続が開始された。Zの財産状況は良好とは言えないが、まだ破産手続開始決定を受けるほどではない。Sの破産手続開始直前の2003年3月31日にZが利息の外に元本の一部200万を弁済し、さらに、破産手続中の2004年3月31日に利息の外に元本300万円をGに弁済した。その後の同年10月にSの破産手続において最後配当がなされるものとする。

(小問1) Gはどのような債権をもってSの破産手続に参加することができるか。Gはどの金額を基準にして配当を受けることになるか。

(小問2) GがSの破産手続に参加した場合に、ZはSの破産手続に参加することができるか。できるとすれば、どの金額を基準にして配当を受けることになるか。

(小問3) GはSの破産手続からできるだけ多くの配当を得たい。そのためには、GはZと保証契約を締結する際に、どのような合意をしておくのがよいか。上記の例において、2004年5月にZについて破産手続が開始される場合を想定して答えなさい。